

刊夕 日六廿月三

常磐毎日新聞

定価 一部券 一月五拾銭 郵費別
 廣告料 五拾二文字 行金五拾銭
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 福島県石川郡平野町三丁目
 電話 六三〇
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社



農村は救はれず

代議士 高橋熊次郎

五、國防の見地から何と見る

次に、荒木前陸軍大臣は内政會議に於て、國防の見地から農村對策の重要性を強調し、昭和九年度提出豫算に對して尠からず不満を有たれて、將來に於て此種緊要な施設を爲すべきことを申合されたと傳へられて居る。又現林陸相も荒木前陸相の此主張を繼承されて就任されたと云ふやうに伺つて居る。然るに昭和十年度豫算は未曾有の災害があつたに拘らず、荒木前陸相

ノート

驅逐艦のスピードは一時三十四ノットだから、超特急「燕」と略々同じ位の速さである。

が不満とし、國防の見地から更に幾多の施設を必要なりとせられた昭和九年度豫算に比して、農村對策豫算は約一億圓減額されて居る。内政會議に於ける荒木前陸相の主張は、相當盛られて居なければならぬ筈の昭和十年度の豫算が、斯

く貧弱である、前陸相の主張を繼承せらるゝ林陸軍大臣は、是で十分だと考へて居られるのであるか。今日の國際情勢に於て國防の充實が必要であることは、前段申した通りである。併ながら軍艦を造り、大砲を造

ると云ふのみが國防の總てでないことと云ふことも申した通りである。大砲の後には忠勇なる軍人が居なければ何の威力をも發揮しないのではあるまいか。即ち機械的軍備の外に、人的、財的の軍備があつて、初めて國防の完璧を期することが出来る。吾々は考へる。曩に農村に於ける中産階級を擁護すべしと痛論したのは此理である。過去數次の戰役に於て大捷を博したのは兵器の優つて居つたばかりではなく、寧ろ私に其の重點は人的軍備の威力に負ふ所が多かつたと信じて居る、忠勇義烈なる軍人の活躍、愛國的情熱に燃ゆる全國民の銃後の援助とは、



冬

小野 忠

冷えびえとした寒さだ
 冬なのだ
 夜なのだ
 火鉢の炭が雪のやうに白い
 机上に置かれた抒情詩の本
 から
 部屋中に寒さがしみ通る
 私はさびしく此處にゐる
 私他には誰もゐない
 寂しさ、倦びしさ
 青春の芽すくりと伸び
 冬なのだ
 佻しい冬の夜更けなのだ



志度有難う存じます
レストラント 平層韻
 電話 624

吉田眼科病院
 平野町 電話 六三〇
 醫學士 吉田久雄

貸切の御用命は！
 電話六四〇番
 尼子タクシ―へ
 是非お願いいたします
 遠乗りには特に御相談に應じます

おひな人形 大賣出し
 本年の新型人形 セット物各種
 小道具類一式
 豊富に取揃へました
 是非御一覽下さい
 平二丁目
フクダヤ祝品部

電話新設
 電話五一八番
 平町松ヶ岡公園内
春木亭

米國製劑皮膚病良藥
レメドール
 子宮あたゝめぐすり
宮温湯
 丹波博士創製セキドメ
たんはあめ
靈薬ムテキ
 平町古鍛冶町〇一
阿康藥舗
 縣社ノ下 電話四四番

株式賣買債權取立
 會社 三三 共 商 事
 大町 電話三六〇番

新學期 通學服賣出

男兒用
 紺サージ金釦服... 3.60
 黒小倉服... 1.60

女兒用
 紺セルセーラ服... 2.60
 特製黒小倉服... 3.60

ふかや洋服店 平野 三 電話 233

名譽の郡賞

受賞者約二百名

郡下各小學校及び實業補習校、青年訓練所の本年度卒業並に修了者中成績優良により石城郡教育會より名譽の受賞者は小學校百六十七名、實業補習校九十一名、青年訓練四十一名合計二百九十九名であるが各小學校の受賞氏名左の如くである

(植田) 鈴木道榮 北郷春江 小野清一 菅野イシ (錦) 金成懿 高木春枝 志賀清一 高木マサ(勿來) 佐竹喜代松 青天目弘 小野菊江 小野三枝 (川部) 白若誠 園部ミツ子 飯塚正壽(上遠野) 高木利一 蛭田春子 高木四郎 青天目京(入遠部) 田部力 榎田ナホ 根本正充(田人) 青田春義 草野信清 綠川春信 吉田忠五郎(湯本) 鈴木秀枝 永井博 小野八重 舞木熊男 小泉首 早立房江 沼田五十子 大田閔倍 瀧田キクノ 佐藤ナヲ (磐崎) 丹喜代松 枝野一郎 諏訪五郎 河部浪子 寺門たま 若松總一郎 伊藤英男(渡邊) 澤田一 遠藤好(泉) 阿部文子 佐藤三男 水野五郎 上遠野タケ子(小名濱) 小野勝木田敦 加藤信子 小林恭子 小野正 作山ハルイ(玉川) 齋藤喜之 崎

村上殿(四倉) 新妻賢司 白澤喜代子 古川正 若松信郎 小田イマ(渡戸) 草野シメノ 藁谷カネ (永井) 阿部三代 鈴木澤子(合戸) 松崎アイ子(箕輪) 遠藤清美(澤渡) 佐藤政市 小室章 大谷キミ子(上三坂) 田子甲平(中三坂) 吉田オカヨ(下三坂) 白石サクヨ

惠三(鹿島) 橋本仁 紺木義明(江名) 吉原鈴子 遠藤英夫 戸田フク(飯野) 永山敦子 小野繁 加藤良一(好間) 齋藤正雄 寺津友二郎 宗像政子 石井ヨシ 宮内二郎 高橋ヒデ 吉田留恵子(平第一) 菅本進 杉本光男 稻島正 高階文三 鷲甚一 吉田喜造(平第二) 根本ツネ子 齋藤光子 山賀多子 小野文子 根本廣子(平第三) 松崎惣兵衛 白土貞子(内郷) 小野正雄 長谷川スミ 野木實 武藤義記 堀喜美子 駒木根博 齋藤定良 鈴木誠志 高柳喜代子 渡邊アキ子 草野ヒデ(川前) 中村忠雄(桶賣) 大川原善三(小川) 西山修平 草野幸子 白石政保(赤井) 金成五郎 鈴木邦子 鈴木寛 松崎彦 渡邊起位 草野タカ子(平窪) 長瀬安雄 引地千代(豊間) 四家好之助 大平朝子 鍵谷健三(高久) 野口良光 田仲義宗(夏井) 阿部薫 根本喜重(神谷) 佐藤マキ 澤田壽一 荒川清一郎 (草野) 佐藤信郎 五十嵐松枝 高田光司 新妻フミ子(大浦) 根本勲 根本シイノ 若松三郎 根本タミ(大野) 高木ヨシ子 鯨岡喜代治 吉田キクヨ

水産試験所
けふ起工式

既報小名濱町水産試験場及び水産學校の地鎮祭並に起工式は本廿六日午前十時から小名川埋立地に縣の乾水産課長、近藤營繕課長及び來賓白餘名列席の許に盛大に舉行された

先づ社前に 表彰旗報告

披露式は櫻花期に

光榮の平消防組

既報平月本消防會より全國中の優良消防組として表彰される平消防組は昨二十五日午後三時井上組頭宅に幹部會を開いた結果井上組頭、關内副組頭の二氏が廿七日夜上京廿八日內相官邸の授與式に參列して廿九日午後一時二十五分優勝旗を捧持して平驛頭に着し官民多數の出迎裡に一路縣社子嶽倉神社に急ぎ社頭に報告祭を擧ぐる事に決定した尙表彰旗の披露式は來月廿日頃櫻花の満開期を下して擧げる豫定である

産業組合 擴充協議

石城産業組合部會は本月廿九日午前九時から部會事務所漁村産業組合擴充協議會を開き左記事項を協議する

一、前回決議事項の實行に關する件
一、漁村の現状と産業組合に關する報告
一、漁村組合の擴充に關する件

動力物の 賃摺取締

郡下農村には、數年來動力を使用する級の賃摺業者大部分は組合が非常に増加し郡産米の割は賃摺業者

豊間漁港 昨日竣工

既報總工費十六萬圓を投じ昭和七年以來工事中の豊間漁港は本月上旬より最後の港内浚渫作業に全力を傾注し昨廿五日を以て全工事を竣功したので來月上旬小林平七木監督所長が竣功検査を行ふと

草野信組總會 草野信用組合は本廿六日午後一時より同村龍藏寺に於いて總會を開き理事監事及び評定委員の改選を行つた

平野 人事

△出 生
△杉平二〇馬上信吉氏六男 嶺雄
△二丁目當時内郷村字堀坂 和田義次氏四男信一
□ 死 亡
△鎌田町當時内郷村字白水 矢越忠治四九さん
△田町五堀川ミツ六六さん

竈を 検査

平消防組は本日午前九時全員を平驛前に集合、第三小學校庭で規律訓練を行ひ午後から市内各戸の竈検査を行つた

玉屋洋品店
平町田町通電話三六六番

ウツプ

美味！ 芳醇！ 宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める
川崎 回文庫
電話六三〇番
(申込次第規則書進呈)

印刷の御用は
設備完全の
『常磐毎日』へ
電話六三〇

血櫻組の資金にと

原博士を脅迫

平署犯人嚴探中

不良青年の仕業か?

二十五日午後七時頃好間村古河炭礦病院長醫學博士原重熊(四)氏方に年齢二十才位の青年が訪れ血櫻組の資金にするのだとの脅迫状を授け込み程程覆面の一青年が同博士と女中を脅迫して金十圓を強奪逃走した、届出により平署では極秘に附して捜査中であるが地元の不逞青年の仕業らしいと

屋根飛ぶ

大風被害續報

平町は幸ひ難を免る

昨報廿五日に平地方を襲つた烈風被害は昨報の外左の如く市内は電燈線の一部停電のみで電信電話其他の交通機關等に支障がなく難を免れた観がある

△内郷村宇白水壽炭礦の石炭積場の屋根四坪が廿五日午後一時頃吹き飛ばされ更に附近にある坑夫長

隣の乗客の

土産物を盗み

下車する處を捕る

渡邊村生れ無職住所不定大友義明(三)は去る廿四日泉村渡邊(三)さんが車内網棚に載せて置いた女羽織

や土産物等在中の風呂敷包を盗み助川(三)に下車する處を捕れた

調査洩れの

勇士に

記念品贈呈

既報平町は本月十日の陸軍記念日に際し露戦役出征兵に對し感謝状と記念品を贈呈したが左記の如く贈呈洩れがあり近く夫々贈呈する筈

(古鍛冶町)新妻勝彌 收
野長左衛門(三丁目)鈴木 兼次郎目(北)新井滋造
一之瀬森之助 菊地隆三
草野村義捐金 草野 村では大野、大浦大火罹災

安價に歯科治療

簡保加入者への便宜

平郵便局は田町の簡易保険健康相談所に歯科の施設がなく加入者より屢々此の施設を望まれるので愈々来月一日から平町の歯科醫十五

欠員は出來たが

既に志願が卅通

平局交換手の後釜

既報平郵便局は本月に入り交換手中の退職する者があつて欠員を生じたので近く交換手五名の採用試験を行ふが既に採用願書が三十通以上に達して居るので受験難を現出すると見られて居る



今夜も明日北西の曇後天氣良くなる

今晚の部

後六、〇〇(子供の時間) 齊唱と合唱
A J O K 唱歌隊
後七、三〇 講演「今議會を通過せる法案に就て」 繩貝 詮三
後八、〇〇 地唄「青柳」 中橋 曉夢
後八、二〇 歌謡曲唄小花
後八、四〇 清元「道行旅」
者の爲大字毎に寄附を募集し總額百二十圓を昨廿五日大野村に七十圓、大浦村に五十圓と分けて贈つた

明日の部

前七、〇一 實用語講座「言魂の幸は國」玉井幸助
前七、三〇 朝の修養「降

青年團が總出で

數日來行衛搜索

未だに判明せぬ狂老人

好間村大字北好間宇堂田居住本田忠雄の父明覺(六)は本年一月より精神に異常を呈し數回家出をしたので家人が監視中去る廿四日夕方家人の隙を窺つて行衛を晦したので青年團員が出勤して捜査中であるが判明せず本日平署に捜査願出た

裁判所たより

△石城郡山田村大字下山田雜貨商大津辰雄(三)同郡植田町農小野順平(三)同渡邊初義(三)同小野寅吉(七)無職小野キク(六)無職森谷運藏(七)飲食店業森谷熊次郎(六)の七名は賭博罪に依り今二十六日平區裁判所より夫々四十圓乃至六十圓の略式罰金に處された

平職界紹介所報告

△石城郡山田村大字下山田雜貨商大津辰雄(三)同郡植田町農小野順平(三)同渡邊初義(三)同小野寅吉(七)無職小野キク(六)無職森谷運藏(七)飲食店業森谷熊次郎(六)の七名は賭博罪に依り今二十六日平區裁判所より夫々四十圓乃至六十圓の略式罰金に處された

魔表(六)討伐軍の出動 加藤咄堂
前九、〇〇 家庭メ
前九、一〇 料理献立 小林忠雄
前一〇、三〇 母の講座「新學年を迎へて」(二)新入學兒童を持つ家庭へ
東京市立志村第一尋常高等小學校長木村キヤク
後一〇、〇五 琵琶「勤王烈士傳」回天義舉高杉晋作
鶴田旭窓
後二、〇〇 婦人講座「世界の婦人界を語る」四支那を中心とする東洋の婦人界 村田孜郎
後二、四〇 社會見學「生糸の出來る迄」大宮製糸工場より中繼

後三、五五 第二回放送俳句披講 課題「春風又は春の風」選者安齋櫻魂子
後六、〇〇 子供の時間 お話「グアイオリン」鈴木政吉
後七、三〇 講演「聯盟退後に於ける國際情勢」法學博士山川端夫
後八、〇〇 長唄「綿業會館より中繼」安達ケ原 吉住小三郎外
後八、三〇 落語 三遊亭圓生
後八、五〇 絃樂合奏「コンセルビジウ室樂合奏團」
後九、一〇 連續ラヂオ小説「恩讐の彼方へ」(二)梅澤昇

△農夫 二十前後 月十圓
△女中 十八才 尋卒
△セメント職工 三十才
△電機校卒
△鐵工見習 十九才 高卒
△土工夫 三十二才 尋卒

市原醫院
平・田町
電話一四四番

看護婦急派

の求めに應じます

平看護婦會

平町南町
電話三〇七

木村科醫院

平町六丁目橋際
電話三〇九番



明治太平記

(上巻及上巻)

(作) 寺島征史
(監) 野口 運

第八十四回

征韓是非 (二)

彼は、このことについて知り合の外務官少録森山茂と足繁く往來した。

森山茂も、征韓論の元祖氣取りである男、話は非常に合ふ。しかも森山の征韓論には多少の論據がないでなかつた。

ふたりは、このことで數寄屋橋外の船宿稲屋で、しばし會合して、意思を交換した。

と、いふよりも、佐田が森山から智慧を授かるのだつた。

船宿稲家の、水に面した離屋で數寄屋藝者を相手に二人は酒をくみ交しながら朝鮮せい伐の案を練つた。森山は、大和の天誅組の一人として働いた男、いま外務官少録の官職についてを捨て、四邊に響きわたるやうな聲で物を云ひ、平常でも悲壯な面がまへで痛飲するといつた風。

『佐田君』森山は、いよいよ盃をつきつけた。對手をきめつけ、やうな態度で

『君は、横山正太郎に一本きめこまれて以來少々へこたれてをるな』
佐田は、對手の無遠慮な言葉をも、笑つてゐられなかつた。



うするためだ……といふだけではこまる』
『うむ……日本民族のやむにやまれぬ情意の發動といふところだな、然し、感情論だけでは朝鮮征伐は時期尙早をまぬかれん。大久保卿などがいふてをる。今日の日本は外征よりも内治ぢやと、だから先づわれわれはこの征韓論を打つだけの立派なむしろ功利論にまで論法をすゝめんならん』
『そ、その功利論……があれば鬼に金棒ぢや、そつとや』

『いや、そんなことア、斷じてでない。たゞ吾輩、辯口の才人ぢやないので、大衆に喰ひかける術がどうも下手でな』
『つまり、いつもいふ、論據が薄弱ぢやといふのだから、實は、それもあつた。意あつて大衆を動かすの術が働けんのぢや。朝鮮征伐するのには彼國の暴戻をようちや

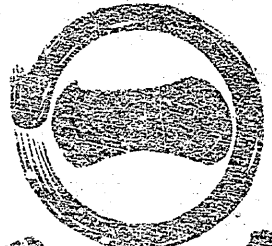
傳授してくれたまへ』
森山は、眼をつぶつた。すぐまた大きく眼をひらいた。激怒してゐるやうな、光る眼だつた。
『まづ世界列國が東洋ことに日本に對してどういふ考へを抱いてをるかな、研究してみるとよい。露國が、北方から手伸ばし、日本國を侵略しようとしてをる

事實は、君も知つてをるぢやろ。近頃日本と露國がカラフト境界問題で折衝を重ねてをるのはほんの一例なんだ。彼國は、ペートル大帝の東方侵略の大野望を繼承して、シベリアから沿海州、カムチャツカを侵略し次いで蝦夷……今の北海道をも自分の領土にせんと計略をたててをる。シベリア沿海州はいざ知らずからカムチャツカ半島はもと、わが神州の領有であつたのぢや』

『ほう』
佐田は、カムチャツカの地名さへ、はじめてきくほどで北方の地理など皆目わからなかつた。
『カムチャツカは、往昔、わが祖先が探險し千島と共にわが國土としてをつたが徳川の江戸中心政策が千島カムチャツカを閉却するにいたり、すて、かへりみなかつたのぢや。』

市土産

千代巻



魚問屋

店理代平命生本日大最優最
榮 盛 賀 志
(三一電)目丁四平

ダイヤ 即金買
サンゴ ヒスエ
東北商行
福島縣 平町
仲田町七二番地
電話六五三番

耳鼻咽喉科専門

病室完備 自炊便有
山内醫院
醫學士 山内亨 吉
平田町 (電話六九一番)

貸切の御用命

ぜひ・三井自動車部へ!!!

電話六八五番

◎乗合は好間、各戸、澤渡方面行

吸入用酸素

純度 99%

度量衡

モノサシ
マス
ハカリ

器量計

體溫計
寒暖計

●秤ノ取緒。垂糸。修繕致シマス

●寫真材料一式販賣致シマス

關内藥局
電話四〇番

かまぼこ製造

お茶屋

平町一丁目
お惣菜用
さつま揚
吉原揚

お茶屋

電話一四一番